

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400303		
法人名	有限会社札幌すこやか介護サービス		
事業所名	グループホーム すこやか		
所在地	札幌市西区西野4条8丁目1-66		
自己評価作成日	2021. 11. 12.	評価結果市町村受理日	2021. 12. 7.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0170400303-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西区西野の住宅街に有り、近くに山並みが見え、春の新緑から秋の紅葉と四季の移り変わりを感じる事が出来入居者様も廊下の突き当りの窓からよく外を眺めています。昨日にはきれいな虹が山並みから空へと延びており、「きれいだね」とほっこりする時を頂きました。下を眺めると小さな川が流れており、見たことのない鳥を見つかることもあります。コロナ禍で2年ほどできていませんが、コロナ前は近所を散歩したりしておりました。ドライブや外食、花見や紅葉など四季折々の楽しみごと、自粛している状況です。職員一同、コロナをすこやかに持ち込まない！を一心に努力をまいりました。ご家族の皆様にもご協力をいただき、達成できております。そして現在も継続しているところです。その分室内でも四季を感じていただきながら楽しみごとをいろいろ計画して喜んでいただいています。季節ごとの行事に合わせて美味しい食事の提供も自慢の一つです。一人一人の状態を把握し、レベルに応じたケアを提供し、ご希望される方は看取りも行います。1ユニット9名の小さなグループホームですが、セラピー犬「チョコ」と共に楽しく生活しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームすこやか」は、自然環境に恵まれた住宅地に建っている1ユニットの事業所で、共用型デイサービスを併設している。また1階には同法人のデイサービスがある。建物の横に川が流れており、日々遊歩道を散歩し、事業所内の大きな窓からも山々の四季が楽しめる。新型コロナウイルス感染症の流行から外部者との交流が難しい状況にあるが、代表者は食が健康の源との思いで開設時から多彩な食事の楽しみを提供している。管理者と職員が一体になって利用者の楽しみごとを工夫し、職員の味噌作りや手打ちそば、漬物などを食卓に添えるなど家庭的で温もりのある暮らしを大切にしている。管理者は感染症の収束状況を見て利用者が以前のように散歩やお祭りなどで外出し、職員が地域祭りの準備や清掃活動に協力する他方、町内会から運営推進会議や防災には協力を得るなど協力関係の再開を考えている。研修ではオンラインで学ぶ環境を整え、職員の提案を活かしながら感染症防止対策を徹底し、かかりつけ医の訪問診療の継続で家族的な環境で最期を迎える看取りも行っている。職員間で情報を共有しながら利用者の思いに沿って対応し、意欲的に業務に携わり良質のサービスを提供している。今年10月から1階の相談室や玄関の窓越しで家族と利用者が会えるように配慮している。今後は家族感謝デーの再開も考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも確認できるように目につきやすい場所(スタッフルーム)に掲示している。理念を書いたカードを入社時から渡し、各自持参している。	事業所理念の5項目に「地域との連携」が入っている。理念の1項目を月替わりで掲示し、カンファレンスの際にも理念に触れて共有している。開設時に代表が思いを込めて作成した理念を職員は大切に実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の流行により、地域の行事も中止となり、お手伝いなどの交流が出来ない状況。しかしごみ投げや送迎時など挨拶を交わしている。	感染症流行前は周囲の散歩や地域の夏祭りに参加し、また地域ボランティアの来訪などで住民と交流していた。現在はグループホーム共用型デイサービスの利用者と交流する程度になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為地域の人々に向けては出来ていないが、電話での相談や支援の方法など伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、運営推進会議は開催できていないが、書面会議の形をとって開催したことはある。	感染症流行の初期に書面会議を行い、感染症防止対策や研修内容などを報告書にし、町内会長に直接届けている。運営推進会議については市の情報を参考に、一時的に会議を開いていない状況にある。	感染症流行の状況を見極め、事業所の取り組み内容を報告書とし構成員など関係者に郵送も考えているので、その工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市グループホーム管理者会議や西区グループホーム管理者会議などで市町村担当者との交流があったが、コロナの為中止となっている。	市の担当者には何かあれば電話で確認し、毎月の事業所報告をメールで行い、市の調査などに協力している。区の担当者に介護認定区分変更や、おむつ利用の申請について確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の開催や、身体拘束廃止研修などを定期的に開催している。	3か月ごとにWeb会議を行い、全職員が参加して内容を把握している。勉強会ではYouTubeも活用し、内容を選んで自宅でも学べるようにしている。その中で具体的な禁止行為を確認し、利用者の言動を抑える言葉遣いがないかを振り返っている。研修内容の記録は印をつけて見やすく考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の中で、高齢者虐待防止研修を毎年開催していたが、社内研修も中止され、グループホームのカンファレンスの中で職員と話し合っている。		

グループホームすこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年社内研修で権利擁護や成年後見制度について毎年学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族やご本人を交え契約し、重要事項説明書を使い十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施や来訪時の面会票に意見や要望を書く欄を設けたり、職員はご家族との対話を大切にし、希望や思いを伝えやすくしている。	感染症流行時から、家族に電話やメールで連絡する際に意向を聞いている。面会制限の解除は見合わせ、今年の10月から1階の相談室や玄関の窓越しで利用者と家族が会える配慮をしている。通信やブログ、管理者のメッセージで暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃より話しやすい関係作りに勤め、代表者は年に2回の面談を定期的開催している。カンファレンスで職員が意見を言いやすい環境にしている。	カンファレンスで意見を交換し、外から感染を持ち込まないために職員間で対応を決め、感染症防止対策を徹底している。代表と管理者はオンラインで学ぶ環境を整え、職員間で情報を共有しながら自信をもってケアが行えるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年年度末、賞与時の面談などで本人の働き方の希望や格付け表、手当表を提示してお話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修を開催する機会や外部研修も中止となったが、今年度下期よりハイブリット方式の社内研修や外部研修への参加も再開した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員に関しては今は外部との接触は控えている、管理者は西区のグループホーム管理者団体に入って活動している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りや、話された内容に対し否定はせず、受容するように努めている。表情や行動を観察しご本人の気持ちを汲み取れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話易い雰囲気作りや笑顔での対応、ご家族の気持ちになって話を傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	観察し、話し合い、必要な支援を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしていただき、出来ない事やお手伝いが必要な時は、本人に合わせて介助させていただいている。普段から感謝の言葉かけを忘れない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のお便りで暮らしの様子を伝え、面会時は日々の様子を詳しく伝え一緒に支える関係を気付いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は居室でたのしいじかんをすごしていた。最近は電話等の対応をしている。	知人や親戚からの電話を取り次いで関係を支援している。同階の共用型デイサービスに通う利用者とはレクリエーション活動に参加し馴染みになっている。歌が好きな利用者や好みの食べものを取り寄せて、その人らしい暮らしを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入すべきタイミングを見極め、利用者同士の関係を尊重し、言葉や伝達がうまく出来ない人の仲介となり支援している。		

グループホームすこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を頂いたり、3回忌が終わりましたとあいさつに来られたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり、表情やしぐさで思いや望みを汲み取り、本人本位に検討している。	分かりやすい言葉がけで思いを引き出しケアにつなげている。センター方式のシートに興味、嗜好、暮らしの習慣を記録し、追記も行い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用しご本人やご家族から聞き取ったり、親族の方に聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用したりカンファレンスでの話し合いの中から情報収集に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの希望や本人の思い職員の意見やアイデアなどを聞き取り、モニタリングをし、カンファレンスで話し合いケアプランに反映させている。	担当職員を中心に毎月モニタリングを行い、状態に変化があれば介護計画を作り直している。安定しているときはモニタリングの経過をもとに、計画作成担当者が1年ごとに更新計画を作成している。日々の記録に変化も記入し次につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫は毎日個別に記録し、申し送りノートや連絡ノート等を利用して職員間で共有し、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とのかかわりの中から感じ取れるニーズやご家族から発せられる思い等に、その都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前には、地域の夏祭りに参加したり地域のボランティアの方と交流していた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療。週1回の訪問歯科を受けている。看取り期や体調不良時等ご家族にも参加していただいて医療とホームとご家族で話し合ったりしている。	基本的に、かかりつけ医を継続し3か所の医療機関の訪問診療を受けている。専門的な診療も訪問診療でほぼ可能になっている。通院がある時は家族の事情によって事業所でも対応することもある。看護職員の記録で個人の受診経過を共有している。	

グループホームすこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員からの細かな情報(皮膚の状態や本人の訴えなど)を報告してくれるため、アセスメントの際に非常に助かっている。職員は看護師からの情報、気づきの交換や相談が出来適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院に至った経緯や普段の状況などを伝え退院時には病院へ出向き、医師や看護師の情報、ご家族の思い、ホームでの対応などを話し合いスムーズな退院へ結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針を定め、ご本人やご家族が望む看取りについて話し合い、早い段階から目指す方向を共有している。	文書をもとに事業所で可能な対応を説明し同意を得ている。状態の変化時に関係者で話し合い、終末期には主治医と家族との同意書を共有し、事業所で同意書を作成することもある。主治医の指導、看護職員のもとで職員は看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者の危険な状態や怒りうる事故に備え、社内研修で毎年学んでいる。救急救命の実技講習設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームのある場所から想定できる災害について検討しシミュレーションしている。社内研修で毎年学んでいる。年2回避難訓練を行っている。	感染症流行時から消防署に届出をし、年2回火災の夜間を想定した自主訓練を実施している。以前の地震時の体験をもとに、対応も話し合っている。冬季や感染症なども含め、事業所で災害備蓄品を整備している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立った言葉使いや声掛け。表情や声の大きさに気を付けている。	感染症流行前は、年2回代表者による接遇研修を実施していた。申し送りは連絡ノートで情報を共有し、記録も殆どタブレット端末を利用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決定できるような声掛けに勤め、ゆっくりとしたかわり方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご本人の生活スタイルを大切に、一人一人のペースに合わせた声掛けをし、行動を待ち、寄り添う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が出来る人のアドバイスや出来ない人の手伝いをしながらその人らしい身だしなみの支援、汚れたときの着替え等を行っている。		

グループホームすこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、楽しい食事が出来る様に心掛けています。どうしてもわからない人には、都度都度声掛け、促し、介助をしている。出来る方には食器の後片付け、食器拭きなど手伝っていただく。	職員が食材を見て献立を考えている。お楽しみ会やクリスマス会にバイキングをしたり、誕生日は赤飯やちらし寿司でお祝っている。うな重や釜めしの出前を取ったり、名産品を取り寄せて地方の味を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分量を記録し、食べられないときは、高カロリーのゼリーなど偏らないように気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科による口腔ケアと食後のケアの声掛け、促し、介助による口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、声掛けや誘導を行っている。排泄の訴えをできない方も、表情やしぐさでトイレ誘導している。	全員の排泄を記録し、身体に負担がかからないように配慮しながら、さりげない声かけで可能な限りトイレでの排泄を支援している。スムーズに排便できるようにポータブルトイレを利用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食べ物で排泄につながるよう、果物や乳製品、食物繊維など工夫している。腹部マッサージや腹圧などで自然排便につなげている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の心身の状況を知り、個々に合わせた支援、リラックス出来る様言葉掛けに注意している。体調がよくなかったり拒否があるときは時間をずらしたり日にちを変えたりしている。	毎日入浴が可能で、午前中を中心に一人週2回の入浴を支援している。シャワー浴の時も温まれるように足浴を行い、好みの湯加減で職員と会話を楽しみながら入浴している。入浴を拒む場合は時間帯や日にちを変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を理解しその時々状況に応じて、寝付けなときは、ホットミルクを飲んでいただいたり、茶の間でテレビを見てもらおうなど落ち着ける環境を作る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の引き出しで薬情を保管し、いつでも見られるようにしている。体調の変化と薬の副作用に注意し、特に薬が変更になったときは注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事、出来ない事を見極め、役割や楽しみごとを見つけている。お手伝いをしていただき感謝の気持ちを伝えている。		

グループホームすこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は散歩や買い物、外食や他事業所のレクリエーションに参加したり、ご家族が入居者様と外食に出かけたりしていた。	感染症の流行により外出は控えているが、窓を開けて外気に触れたり室内から庭や景色を見て楽しんでいる。感染症の収束状況に応じて、周辺や川の遊歩道の散歩などを取り入れていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を持ったり買い物希望される方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いだりはしている。手紙のやり取りを希望される方はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	がやがやした音やまぶしい光など認知症の方が落ち着かない気持ちにならないように気を付けている。一緒に装飾品を作って茶の間に飾ったりしている。掃除・消毒・加湿・換気をしている。	居間や廊下にソファや椅子を配置して、好きな場所でゆっくり寛げるように工夫している。季節に応じて利用者と一緒に制作した作品を壁や天井からつるして飾り、色々な場所で楽しめるように工夫している。クリスマスに向けて、ペットボトルキャップを利用した大型のクリスマスツリーも飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間のソファに一緒に座ってテレビを見たり、廊下にあるソファやベンチに座って一人の空間を楽しんだり、窓から見える山並みを眺めたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものやなじみの家具や配置に気配りし落ち着いて過ごせる工夫をしている。	殆どの居室に電動ベッドが準備されている。絵画や誕生会カード、敬老の日に送られた賞状などが飾られている。アルバムや使い慣れたタンス、机などを持ち込んだり、好きな縫いぐるみや小物を飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使い安全に移動し、移動経路に危険がないかどうかを確認し、表札やのれん、寝具等でなじみのもので落ち着いて生活していただく。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム すこやか

作成日: 令和 3年 12月 6日

市町村受理日: 令和 3年 12月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ感染症流行により、運営推進会議が開催できていない。	事業所の取り組み内容を報告書として構成員など関係者に郵送する。	今回行った外部評価の内容をご家族に送付するとともに町内会構成員にもお送りする。 その中に、事業所の取り組みについて書面でお知らせする。	
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。